

唾液検査学特論

Advanced Course of Saliva Examination Medicine

キーワード

- ① 唾液診断
- ② 腫瘍マーカー
- ③ 唾液腺健康医学
- ④ 非侵襲的検査
- ⑤ ヘルスケアモニター

授業概要

唾液検査は、歯科疾患に関する診断・予防・治療効果などの判定に用いられてきたが、近年は、全身疾患の検査に用いることが研究され、癌や感染症の検査として確立がされた唾液検査もあり著しく進歩を遂げている。本講義では、主に全身との関連に用いる唾液検査について現状を解説する。特に、唾液検査の理論と実際的な手法を理解することで、検査学としての意義を教授する。また、世界的にも唾液検査は注目されており世界の動向についても紹介する。

授業科目の学修目標

本科目では、唾液検査に関する基礎的な事項を日本語で解説後、文献やWebを用いて、世界的な唾液検査の動向を紹介し、唾液検査に関する知見をグローバルに検討する能力を修得することを目的とする。

授業計画

- ① 唾液腺の基礎的事項を英語のテキストを用いて教授する。 10コマ 槻木恵一
- ② 唾液検査の種類や開発動向を教授する。 5コマ 槻木恵一
- ③ 唾液検査の標準化および採取の手順を教授する。 5コマ 槻木恵一
- ④ 海外の唾液検査に関する最新の英語論文を紹介する。 10コマ 槻木恵一

教科書および参考書

槻木恵一監修：非侵襲的検体検査の最前線、シーエムシー出版、2015年

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

特になし

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 唾液腺の基礎的事項を英語で理解する。
- ② 唾液検査の種類や開発動向を理解する。
- ③ 唾液検査の標準化および採取の手順を応用できる。
- ④ 海外の唾液検査に関する最新の状況を説明できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	0%	50%	0%	50%	0%

評価の要点

唾液検査に関する学会発表を行い、その課程を評価する。さらに、全講義終了後に口頭試問により理解度を判定する。

理想的な達成レベルの目安

70%以上の評価を理想的な達成レベルとする。